

# 高大接続改革を追う ▶▶▶ 第16回

「高大接続改革を追う」のコーナーでは、高大接続改革に関するトピックスと、各大学の個別選抜の取り組み等を紹介する。

今回は7月以降に公表された情報の中から、2021年度入試に向けた大学入試英語成績提供システムにおける共通ID発行スケジュール、9月11日現在の英語認定試験の活用方法、大学入学共通テスト国語における記述式問題の段階表示について見ていく。

各大学の個別選抜における多面的・総合的評価に関する取り組みは、九州工業大学を紹介する。九州工業大学は、2019年度入試より、大学入試センター試験の成績に加えて、「課題解決型記述問題」「グループワーク」「個人面接」「高校入学後の活動に関する記述」など多面的で総合的な評価で選考するAO入試を実施している。

## CONTENTS

### Part 1

◆ 高大接続改革のトピックス…………… p34

### Part 2

◆ 九州工業大学…………… p38

- ・ 課題解決型記述問題やグループワーク等、各選考にさまざまな工夫
- ・ 丁寧に設計された、エンジニアとしての適性を見極めるAO入試

## Part 1

### 大学入試英語成績提供システム

#### 今年11月から共通IDの申し込み開始

大学入試英語成績提供システムは、大学入試センターが要件を満たしたと認定した民間の英語の資格・検定試験（以下、英語認定試験）の成績を集約・管理し、大学へ成績を提供する仕組みのことである。受験生が6団体の英語認定試験のうち、どの試験を受けていても、システムに成績が登録されていれば、大学からの求めに応じ、大学入試センターから成績が提供され、受験生から直接大学に証明等を送付する必要はない。

今年7月に、大学入試センターより、大学入試英語成績提供システムの共通ID発行スケジュールが公表された。英語認定試験に関わるスケジュールをまとめたものが、<図表1>である。この仕組みを利用するには、受験生は、まず大学入試センターに「共通ID」（10桁の識別番号）を申し込む必要がある。

高校生は、大学入試センター試験（以下、センター試験）の出願と同様、高校を通じての一括申し込みが基本となる。現高2生は、2019年11月1日から約2週間が申込期間となる。この期間に申し込まなかった場合は、2020年1月27日以降、9月10日までが追加発行申し込み期間として設定されており、随時大学入試センターが受理する。

今年に限り、2021年度入試を既卒生として受験する可能性のある現高3生を対象にした申し込みが行われる。学校経由でまとめて申し込む場合は、12月2日～12月10日までの9日間と非常に短い期間になっている。なお、高3生は個人で申し込むことも可能で、その場合は高2生用のスケジュールと同様となる。

共通IDを申し込むと、共通IDやID取得者の登録内容等が記載された共通ID通知はがきが送付される。センター試験の確認はがきと同様、通知はがきを受け取ったら、生徒に配布し、登録内容の確認を行い、必要があれば内容の修正・変更をする必要がある。このほか、生徒卒業時のデータ更新なども高校で行う。

共通ID通知はがきの登録内容の修正・変更は、英語受験状況確認システムで申請できる。英語受験状況確認システムによる申請が難しい場合は、紙による申請も可能である。

共通IDの発行は無料で、今回発行された共通IDは2022年3月31日まで有効で、2022年度入試でも利用可能である。なお、共通IDは1人1つに限った発行となり、万一複数の共通IDを発行すると、不正行為扱いとなり、システムに登録された成績が全て無効となる点については注意する必要がある。

高3生については、高校として学校で一括申し込みを行うのか、生徒個人に申し込みさせるのか、決めておく

<図表1> 2021年度入試 英語認定試験に関するスケジュール

大学入試英語成績提供システム		入試スケジュール
2019年		
9月	2日～ 共通ID 発行申込案内配布	
11月	1日～14日 共通ID 集中発行申込期間	
12月	2日～10日 2019年度高3生対象 共通ID発行申込期間（学校経由）※1	
2020年		
1月	中旬 共通ID通知はがき 発送	
	27日～ 共通ID 追加発行申込期間（～9月10日）※2	
2月	中旬 共通ID通知はがき 発送	
4月	受験期間 A	
7月	受験期間 B	
8月	7～13日 確認期間※3	
9月	大学への成績提供開始	総合型選抜 開始
10月	7～13日 確認期間※3	
11月	大学への成績提供開始	学校推薦型選抜 開始
12月	受験期間 C	
	22～28日 確認期間※3	
2021年		
1月	16・17日 大学入学共通テスト	
2月	大学への成績提供開始	一般選抜 開始
3月		

※1 2019年度高3生に限り、高校での一括申込可

※2 追加発行申込期間に申し込んだ場合、共通ID通知はがきは大学入試センターが受理後原則30日以内に発送予定

※3 大学への成績提供対象となる試験が成績提供システムに登録されているかを、受験生本人がシステムのマイページ上で確認する期間

※河合塾作成

必要があるだろう。

**受験期間は3期に分かれる  
各期間で成績提供開始時期が異なる**

大学に提供される成績は、総合 CEFR 段階別表示と総合スコアは全資格・検定試験について提供され、4技能別の CEFR 段階別表示、4技能別のスコア、合否は一部の資格・検定試験について提供される。

登録できる成績は、大学を受験する年度の4～12月までの最大2回までの成績であり、大学への成績提供は、総合型選抜・学校推薦型選抜での利用を想定して、9月から開始される。成績提供開始時期によって受験期間は

3つの期間に分けられている。総合型選抜（AO入試）での利用を想定している場合は受験期間 A で、学校推薦型選抜なら受験期間 B で少なくとも1回は英語認定試験を受験しておく必要があるようだ。また、資格・検定試験ごとに成績確定までにかかる期間が異なっている点にも留意しておきたい。具体的な試験の実施日や、受験期間（A、B、C）のいずれに該当するのか、まだ未公表の試験実施団体がある。今後、各資格・検定試験の試験実施会場等とあわせて、各実施主体のウェブサイトにも順次公表される予定だ。

以上が大学に提供されるデータと提供時期の概略だが、選抜に利用する資格・検定試験や成績の取り扱い条件等は各大学によって異なる。

<図表 2> 国公立大 (一般選抜) 英語認定試験の活用方法

	パターン		大学
	CEFR レベル		
①出願資格として利用	B 1 以上		長崎 (多文化社会)、兵庫県立 (国際商経 - グローバルビジネス)
	A 2 以上		旭川医科 (医 - 医)、山形 (地域教育文化、農 - 後、医 - 医)、埼玉、千葉、お茶の水女子、電気通信、東京、東京医科歯科、東京外国語、東京海洋 (海洋生命科学、海洋資源環境)、東京農工、一橋、横浜国立 (経済)、金沢 (人文、法、国際、医)、山梨 (工、生命環境、医 - 医)、浜松医科、名古屋、岐阜 (医 - 医)、滋賀、京都、大阪、神戸、奈良女子、鳥取 (農 - 共同獣医)、島根 (医 - 医)、徳島 (医 - 医、歯 - 歯、薬)、香川 (医 - 医)、愛媛 (医 - 医)、九州、長崎 (多文化社会以外)、宮崎 (医 - 医)、琉球 (医 - 医)、札幌市立、群馬県立女子 (国際コミュ - 後)、山梨県立 (国際政策、人間福祉 - 福祉コミュ)、静岡文化芸術 (デザイン)、京都府立医科、大阪市立、大阪府立、兵庫県立 (国際商経 - グローバルビジネス、工、理以外)、奈良県立医科、奈良女子、和歌山県立医科、尾道市立 (経済情報)、沖縄県立看護
	A 1 以上		旭川医科 (医 - 看護)、帯広畜産、宮城教育、山形 (医 - 看護)、東京海洋 (海洋工)、横浜国立 (経営、理工、都市科学 (都市社会共生除く))、上越教育、金沢 (人文、法、国際、医、一括入試を除く)、福井 (国際地域以外)、山梨 (教育、医 - 看護)、滋賀医科、京都教育 (英語領域専攻以外)、奈良教育、徳島 (医 - 医、歯 - 歯、薬以外)、香川 (医 - 医以外)、愛媛 (医 - 医以外)、高知、福岡教育、熊本、宮崎 (農)、福井県立 (経済)、山梨県立 (人間福祉 - 人間形成、看護)、滋賀県立、尾道市立 (芸術文化)、山陽小野田市立山口東京理科 (薬以外)、香川県立保健医療 (保健医療 - 看護)、愛媛県立医療技術、宮崎公立
	レベル不問		小樽商科 (昼間 - 数学重視枠)、山形 (農 - 前期)、岡山
	未定		金沢 (一括入試)、青森公立 (前期)、高崎経済 (地域政策)、宮崎県立看護
②点数化して加点	共通テストの成績に加点		北見工業*、北海道教育*、室蘭工業、弘前、岩手、秋田、山形 (人文社会科学、理、工)、福島、茨城、筑波*、宇都宮、群馬*、東京学芸*、東京芸術 (美術)、長岡技術科学、新潟、信州 (教育 - 英語教育以外)*、静岡、愛知教育*、豊橋技術科学、名古屋工業、岐阜 (医 - 医以外)、三重、大阪教育、兵庫教育、和歌山*、鳥取 (医 - 医、農 - 共同獣医以外)、島根 (医 - 医以外)、山口、鳴門教育、九州工業、佐賀、宮崎 (農、医 - 医以外)、鹿児島*、鹿屋体育、琉球 (医 - 医以外)、公立千歳科学技術、青森県立保健、宮城、秋田県立、秋田公立美術*、山形県立米沢栄養、福島県立医科、茨城県立医療、群馬県立女子 (文)*、埼玉県立、千葉県立保健医療、長岡造形*、石川県立、金沢美術工芸、公立小松 (国際文化交流)、福井県立 (経済以外)*、長野、長野県立 (グローバルマネ - 中期)、岐阜薬科、静岡県立、静岡文化芸術 (文化政策)、愛知県立*、愛知県立芸術 (美術)、名古屋市立*、三重県立看護、京都府立、公立鳥取環境、県立広島、広島市立、下関市立*、山口県立、香川県保健医療 (保健医療 - 臨床検査)、高知県立、北九州市立、熊本県立 (文以外)*、大分県立看護科学、沖縄県立芸術
③共通テスト英語に置き換えて利用	共通テスト英語を満点とみなす		東京芸術 (音楽)*、福井 (国際地域)、広島、都留文科 (文 - 英文)*
	共通テスト英語と比較し高得点を利用		富山*、国際教養*、群馬県立県民健康科学*、京都市立芸術*、神戸市外国語*、島根県立 (総合政策を除く)*、福山市立*、高知工科*、熊本県立 (文)*
④-1 出願資格および点数化して加点 (①+②)	共通テストの成績に加点		小樽商科 (昼間 - 数学重視枠以外)、横浜国立 (教育、都市科学 - 都市社会共生)、信州 (教育 - 英語教育)、京都教育 (英語領域専攻)、鳥取 (医 - 医)、大分、青森公立 (後期)、群馬県立女子 (国際コミュ - 前)、山陽小野田市立山口東京理科 (薬)、山口県立
	個別試験の成績に加点		東京工業、高崎経済 (経済)*
④-2 出願資格および共通テスト英語に置き換えて利用 (①+③)			福井 (国際地域)、神戸市看護
⑤利用しない			北海道、東北、筑波技術、京都工芸繊維、公立はこだて未来、岩手県立、会津、神奈川県立保健福祉、新潟県立看護、富山県立、公立小松 (国際文化交流以外)、都留文科 (文 - 英文・国際教育以外)、敦賀市立看護、長野県立 (グローバルマネ - 中期以外)、長野県看護、岐阜県立看護、愛知県立芸術 (音楽)、奈良県立、岡山県立、新見公立、名桜

※ 2019年9月11日現在、河合塾調べ

\* は英語認定試験を必須としない大学

河合塾が国公立大学一般選抜の英語認定試験の活用方法を調査したところ (9月11日現在)、「出願資格として利用」「点数化して加点」の大きく2つに分かれた。「出願資格として利用」は39%で、「点数化して加点」は42%である。その一方で、英語認定試験を「利用しない」とする大学もあり、12%を占める (注)。

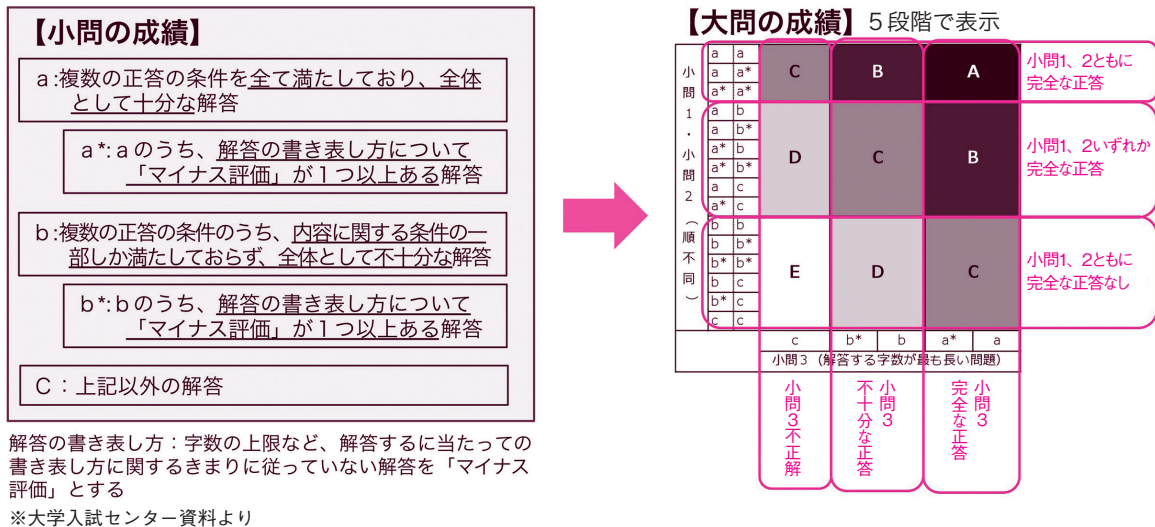
<図表 2> は「出願資格として利用」とする大学をまとめたもので、旧帝国大や医学科を中心に A2 以上とな

っているが、その他の大学では A1 以上としている大学が多い。中には英語認定試験の受験は必要だが、CEFR レベルは問わないとする大学もある。

<図表 2> の②~④は点数化するなどして合否判定に利用する大学である。大学入学共通テスト (以下、共通テスト)「英語」に加点するほか、共通テスト「英語」を満点とみなす、英語認定試験を点数化したものと共通テスト「英語」の得点を比較して高得点の方を採用する

(注) 活用パターンの割合 (%) は、1学部 (募集区分) でも該当がある場合は、1大学として集計している。

＜図表3＞大学入学共通テスト国語における記述式問題の成績段階表示



といった方法がある。また、出願資格と点数化を組み合わせる大学もある。

英語認定試験の成績を保持していない場合の代替物も提示している大学がある。例えば、東京大では、CEFRのA2レベル以上の英語認定試験の成績または高等学校による「証明書」の提出を出願要件としており、いずれも提出できない場合は、その事情を明記した理由書の提出で出願が認められる。奈良県立医科大は「調査書」に説明してあれば出願を受理するとしており、大阪大では、例外を認める事例を限定しているなど、こちらも大学により対応が分かれる。

英語資格・検定試験の利用方法自体も大学や同じ大学でも学部・学科・方式により異なるなど、現状は多岐に渡っている。志望校の利用方法については正確な情報把握が必要となる。

### 国語記述式の成績表示 内容面に関する評価を追加

英語認定試験とともに、記述式問題導入は、共通テストにおけるポイントの1つだ。今年6月に公表された「令和3年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」において、「記述式問題の成績については、国語では、マーク式問題とは異なり、全体及び小問ごとの段階表示を行う」と、段階評価となることまでしか示されていなかったが、その詳細が8月下旬に公表された。

＜図表3＞のように、小問別評価が試行調査時と変更

された。試行調査では各設問を小文字のa～dの4段階評価としていた。内容面に関する評価をa・b・cの3段階で表示、さらに字数の上限など、解答するに当たっての書き表し方に関するきまりに従っていない解答に関する評価を「\* (アスタリスク)」付きとすることが公表された。その結果、a、a\*、b、b\*、cの5段階となる。

大問の成績は、試行調査と同様、各小問の評価の組み合わせで決まり、大文字のA～Eの5段階評価である。「問3の重み付けを1.5倍」という表現は削除されているが、示された＜図表3＞をみると手法は変わっていない。

今後、共通テストの実施に向けて、11月に「大学入学共通テストの記述式問題の採点に関する準備事業」が実施される。実施科目は、国語と数学Iで、国語は記述式のみ、数学Iは記述式（必要に応じてマーク式も出題）が出題される。各科目約1万人程度の実施規模が予定されており、高校1年生を対象にするほか大学生等にも実施される予定だ。その目的は、大学入試センターと採点事業者との役割分担、採点者への事前研修の在り方、採点に関する各過程および全体のスケジュールの在り方等を検証し、改善などを図ることである。採点事業者による実施が予定されており、採点事業者は、8月下旬に株式会社学力評価研究機構に決まったと公表された。

いよいよ2021年度入試に向けて、共通IDの発行など、具体的な動きが始まる。いまだ課題も多く指摘されているが、今後どのように解決が図られるのか注視しておきたい。



# 課題解決型記述問題やグループワーク等 各選考にさまざまな工夫 丁寧に設計された、エンジニアとしての 適性を見極めるAO入試

## 九州工業大学

九州工業大学は、工学部（戸畑キャンパス）と情報工学部（飯塚キャンパス）が設置されており、卒業生の約70%は、関東・東海・関西地区へ就職している。

2019年度入試よりAO入試を実施しており、大学入試センター試験（以下、センター試験）の成績に加えて「課題解決型記述問題」「グループワーク」「個人面接」「高校入学後の活動に関する記述」など多面的で総合的な評価で選考する<表1>。中でもグループワークは、実施の2年前から試行を行うなど、十分な準備期間を経て丁寧に設計されている。

こうした入試を導入した経緯などについて、副学長（広報・入試・IR担当）安永卓生教授と高大接続・教育連携機構AO部門アドミッション・オフィサー藤江美奈先生にお話をうかがった。



安永卓生 副学長

藤江美奈 先生

集人員が少ないため、選考や採点などに時間をかけることができるAO入試では、理系5技能を全て問うことを目標としました。さらに、いずれ一般入試でも“探究”科目への対応が必要となることも考えられます。その際には、例えば総合問題の出題なども検討が必要でしょう。今からそのためのノウハウなどを蓄積しておくことも大切です。また、入学者の追跡調査を行うことなどにより、エンジニアとしての適性を見極めるためのポイントや最適な入試方法なども見えてくるのではないかと考えました」（安永副学長）

こうした背景から、AO入試では先々を見据えて、多面的で総合的な選考が行われている。

### 新学習指導要領下での入試も視野に 理系5技能を総合的に問う入試制度を設計

九州工業大学では、加速するグローバル社会で活躍する技術者（グローバルエンジニア）に必要な能力（要素）をGCE（Global Competency for Engineer）と定めて、それらを育成するためのさまざまな取り組みを実施している<表2>。技術者として重要な素養は、主体的・自律的で協働的な学びができ、しかも持続的に学べることであると考えており、そのための基礎的な力を『理系5技能』と位置づけている。5技能とは、情報を『聞き取る力』とそれを『話す力』（対話力）、文字だけではなくて図表も含めた情報を『読み取る力』とそれを『書き出す力』に加え、『協働する力』である。

しかし、前期・後期日程の入試は学力試験が中心である。安永副学長は「従来の入試では、理系5技能を十分に問いきれていないのではないかと」という問題意識がありました。そのため、AO入試を導入して教育研究活動で中心的な役割を果たす学生を採りたいと考えました。募

<表1> 2020年度AO入試の概要

募集人員	工学部 22名、情報工学部 22名	
第1段階 選抜方法 (1,200点)	志願者が募集人員を大きく上回る場合に実施	
	センター試験	900点
	調査書	200点
	高校入学後の活動に関する記述	100点
第2段階 選抜方法 (1,500点)	センター試験	900点
	課題解決型記述問題	150点
	グループワーク	250点
	個人面接	200点

\*詳細は「2020年度入学者選抜要項」をご参照ください。

<表2> グローバルエンジニアに必要な能力（要素）  
—GCE(Global Competency for Engineer)

- A 多様な文化の受容
- B コミュニケーション力
- C 自律的学習力
- D 課題発見・解決力
- E デザイン力

**課題解決型記述問題は  
数学と理科から選択  
設問はエンジニアと  
しての適性を測る  
2問で構成**

中でも、特徴的な選考方法は課題解決型記述問題とグループワークだ。

課題解決型記述問題の試験時間は60分で、受験生は当日に問題を見てから、数学か理科のどちらかを選択できる。特別な知識は要求されていないが、問題文から読み取った内容を思考し、さらに他者に正しく説明ができるかどうかを試されている<問題例>。

安永副学長は、「論理的な思考ができて、しかもそれをきちんと記述ができるかどうかを問うています。さらに知識の有無を問うことが目的ではないため、高校ではなく、小・中学校の算数、数学と理科の中から出題の題材を選んでいきます。小・中学校での学びをさらに高校で深め、それを解説できて文章に書けるかが出題の狙いです」と話す。そのため、作問に当たっては、小・中学校の学習指導要領を参考にしているようだ。

さらに問題にはもう一つの意図が組み込まれている。「問1は表や図などから必要な情報を読み取る力、考察して仮説を立てられる力を問うています。しかも、それを文章で書けることが必要です。本当に理解していないと正しく書けません。さらに、問2はデザインする力を問う問題です。エンジニア、リサーチャーは研究や開発の際、データ等を基にしてその上で新しい企画をしてい

<問題例>

**数学** 次の文章を読み、下記の問いに解答しなさい。

図1、2は、小学校・算数において広さを表すための「面積」を学ぶ単元において示されたものである。「面積」は、一辺1cmの正方形の面積を「1平方センチメートル(1cm<sup>2</sup>)」として、それがいくつ分あるかで表現できるとして学ぶ。図1では、どの面積が1番広いか、また、長方形の面積の公式をもとめることに利用され、図2では、様々な面積のもとめ方を考えさせる。図1、図2の背景は共に1cmの方眼を示している。

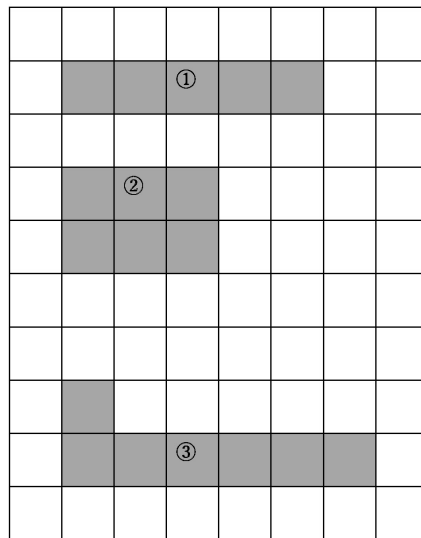


図1

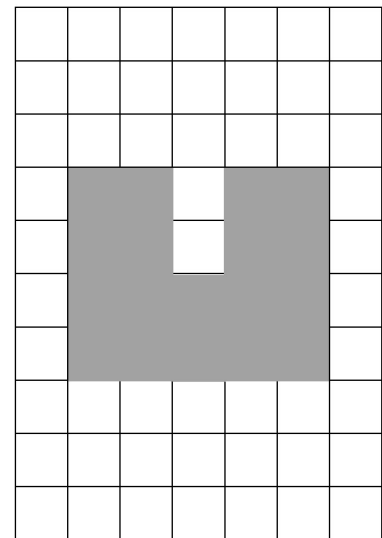


図2

【問1】図1 ①、②、③の面積のもとめ方をおして、教員が小学生に長方形の面積の公式を説明したい。説明方法について記述しなさい。その際、黒板などを使用してもよい。

【問2】長方形の面積の公式を学んだ後、図1 ③の図形の面積を長方形の公式を使ってもとめる様々な方法を考えさせる。その後、図2の面積をもとめるための様々な方法を考えさせる。ここでの考え方は、この後、三角形や平行四辺形、台形などの面積の公式を考えるための基礎となる。そのために、ここでの授業方法について検討し、その方法を、板書計画(黒板に示す内容)とともに企画し、記述しなさい。その際、グループ学習(班活動)の要素を取り入れたものであることが望ましい。

(2019年度AO入試 課題解決型記述問題 第1回より)

なくてはなりません。企画、つまりデザインする力が必要です。問2ではデザインした内容を書き出すことを求めています(安永副学長)と、問1で得られたデータ等を基に仮説を立て、問2で仮説を検証するための実験計画や授業計画などを立てるといふ、エンジニアとしての資質・能力を問う構成だ。

このほか、問題文の場面設定では、大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の試行調査の問題文も参考にし

ていると言う。それでも一般的な入試問題とは作問の仕方が全く異なるため作問には苦勞が伴う。「これまでの入試問題のように、1つの答えではなく、正解の可能性が複数通り出てもよいという前提で作問しています。また、課題解決型記述問題はホームページで公開しています。問題は、データ等が得られた後にその結果をどのようにまとめていけば良いか、高校で“探究”科目に取り組む際に練習として、あるいは参考として使っていただければと思います。作問の苦勞を考えると、公開は、私達にとって一つの挑戦でもあります。ただ、高校での取り組みが、入試や大学での学修、さらには卒業後など将来にもつながっていることを示したいと考えました」(安永副学長)とその狙いを説明する。

### グループワークは十分な準備期間を経て 制度を設計 実施方法や入試で使用する 自己評価シートも積極的に公開

もう一つの特徴的な選考方法であるグループワークは、実施の2年前から準備を始めた。推薦入試の合格者を対象とした入学前教育のプログラムのひとつとしてグループワークを実施し、方法やタイムスケジュールなどを確認することから始めた。

これについて、藤江先生は「本学では、これまで入試でグループワークを実施した経験がありませんでした。入試であれば制度設計をきちんと行う必要があります」と十分な準備期間を設けた理由を語る。その際には、グループワークに卒業生である社会人にも入ってもらい、フィードバックを得て進行方法の改善も行っている。

「参加した卒業生より、最後に話合った内容等をまとめる仕掛けがないと、散漫になってしまうのではないかと指摘を受けて、AO入試ではグループワークの最後に報告の時間を設定しました」(安永副学長)

卒業生は、現在も、入学前教育のグループワークにファシリテーターとして参加している。企業で活躍する社会人としての視点から、グループワークを通じて、将来のエンジニアとしての適性などを確認することが目的だ。これは入試で適切な学生を選考できているかの評価にもつながっている。

なお、グループワークという入試形式は、一般的な受験生には馴染みが少なく、不安に思う生徒もいるだろう。

こうした受験生への考慮から、グループワークに関する情報は、実施方法、例題に加え、グループワークの最後に受験生が記入する振り返り用の『グループワーク活動・自己評価シート』の例までホームページ上で公開している。なお、このグループワーク活動・自己評価シートはAO入試の評価対象だ。

さらに「オープンキャンパスでも実際の入試と同じ形式でグループワークの模擬体験を実施しています。依頼があれば出前講義でも模擬体験を行います。これまでに合わせると30回以上約1,230人を対象に行っています」(藤江先生)と受験希望者に体験してもらう機会を多く設定している。

模擬体験の機会は実施方法の改善にもつながった。ある模擬体験の際、座っている時は緊張した様子の生徒が、立ち上がると表情が変わることに藤江先生が気付いた。

「学内の心理学の教員に確認したところ、緊張して座っている時は呼吸が浅くなるが、立つという動作によって、呼吸が変わり緊張が和らぐことによって、発言もしやすくなることがわかりました。そこで緊張が続いている時間帯には“アイデアの全体が見えやすいように立ち上がっても良いですよ”とグループワークのファシリテーターが声をかけるよう実施マニュアルに追加しました」(藤江先生)

### ファシリテーターがグループワークの進行を支援 高校生が取り組みやすい内容の課題を選んで出題

AO入試でのグループワークは、個人のアイデア出しから始まり、アイデア共有と作業、ファシリテーターへの報告と振り返りまで約30分で行われる。こうした手順が円滑に進むよう、各グループには1名のファシリテーター(教員)が付き、グループワークを支援する<表3>。これはグループワークに不慣れな生徒同士の組み合わせとなった場合でも、受験生に不利にならないための配慮である。

「組み合わせによっては、グループワークがうまくいかない場合も考えられます。その場合、たまたまの組み合わせによって受験生の評価がなされてしまう可能性もあります。ファシリテーターの先生には、あまりにもグループワークが滞ったときは働きかけるようお願いしています」(安永副学長)とあくまでも進行を支援することが目的だ。そのため、ファシリテーターはグループワ



### <表3>グループワーク実施方法の概要

#### 作業1 個人でのアイデアの抽出 (3分)

配付された用紙の両面に課題に対するアイデア(考え)をうみだし、できる限り多く記述

#### 作業2 アイデアの共有 (5分)

1人ずつ順番に、1つずつアイデアを発言し、付箋に記述して共有。(ラウンド・ロビン法による)

#### 作業3 グループ分け (15分)

作業2で共有されたアイデアを分類。分類するための2つの異なる軸を用意し、4つの象限に分類。(ポジショニング解析による)

#### 作業4 グループでのファシリテーターへの報告(2分)

#### 作業5 振り返り (5分)

(「グループワーク実施方法について」より抜粋)

ークの評価は行わない。

また、グループワークの課題は高校生が取り組みやすいテーマを用意することが重要だと言う。実際の入試で用いられた課題は非公表だが、これまで模擬体験などを通じていくつかの課題は公表されている。ホームページには『これまで無くなってきた職業、これから無くなる職業』が例題として掲載されているが、こうした課題を考える際は、テーマの背景を設定することが大切だと言う。例えば、公園で使う遊具をテーマとした課題の場合は『公園の設計を任された技術者として、どのような遊具を設置するかを検討するための、最初のブレインストーミングを実施して、必要な遊具を選定する場面』と、かなり具体的な状況を設定するそうだ。こうすることで「議論の方向がずれたり、膨らみ過ぎたりすることを防ぐことができ、また、意見が出なくなったりするときでも、受験生がテーマを再確認することが容易になります」(安永副学長)とテーマの背景設定にも工学系大学らしさが見える。

### 評価は共通した4観点のルーブリックで実施

各選考の採点は、AO入試用の共通する4観点5段階ルーブリックで評価されている。4観点に対してそれぞれ点数をつける仕組みだ。4観点とは適性(工学分野における意欲・関心・デザイン力)、工学リテラシー(論理性およびそれを表現する力)、工学コンピテンシー1(主体的に学ぶ態度および活動を通した伸びる力)、工学コンピテンシー2(多様な人々と協働して学ぶ力)である。そして、評価は必ず複数の評価者で実施している。

第一段階選抜で課される『高校入学後の活動に関する記述』は、受験生が最大3つの活動を選んで各200字以内で記述したものを評価するが、WEBを利用したシステムを活用して効率的に行われたとはいえ、一人の受験生の評価には延べ12名の評価者が関わる。また、前述のグループワークは複数の評価者がグループワークを評価する。受験生が振り返って記入する『グループワーク活動・自己評価シート』もさらに別の複数の評価者が評価する。

こうして多くの評価者によって評価することについて安永副学長は「多面的評価の難しさは、評価者によって受け止め方が異なるところにあります。そのため、評価者の評価の多様性を認めつつ、できるだけ多くの目で見ることによって、評価のふれ幅を小さくすることが大切です。評価者と評価を担当する選考等との組み合わせを調整することで、約20名の評価者で実施できました」とAO入試は試験実施の実務面でも多くの創意工夫がなされている。

### 2021年度入試で共通テストを課さない「総合型選抜I」を導入

AO入試のために作り上げられたグループワークだが、九州工業大学が高校の先生方を対象に行う研修会でも実施され、高い評価を得ている。前述のように約30分で実施できる枠組みや課題の整理の仕方などが、高校の授業に取り入れやすいと好評とのこと。高大接続改革のために導入されたAO入試のグループワークが、高校の授業改善や高校教育改革にも貢献している。

そして、2021年度入試からは、現在のAO入試は『総合型選抜II』と名称が変わり、さらに9月に出願する共通テストを課さない『総合型選抜I』も新たに導入される。第1段階選抜は課題解決型記述問題と講義受講後のレポート作成で行われ、東京と大阪にも試験場が設置される。多面的・総合的な評価による入学者が拡大していく展開の中で、安永副学長は「今後は評価者側もさらにブラッシュアップしていかなくてはなりません。そのため、評価者を対象に面接の実施方法や評価基準などに関するワークショップを引き続き開催していきます。そして、AO入試で得られた知見をどのように一般入試につないでいくか、現行の推薦入試の改善も含め、課題は少なくはありません」と語り、さらなる改善に向けての意欲を示した。